

第7回県立病院機能のあり方検討会（議事概要）

1 会議名称

県立病院機能のあり方検討会

2 開催日時

令和8年2月25日（水）14時00分から14時55分

3 場所

神奈川県庁西庁舎8階 健康医療局会議室1（オンライン併用）

4 出席者

【委員】

氏名	職等
井上 貴裕	千葉大学医学部附属病院 副病院長／ 病院経営管理学研究センター長
小松 幹一郎	公益社団法人神奈川県医師会 理事
伏見 清秀(座長)	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 教授
本館 教子	公益社団法人神奈川県看護協会 会長
吉田 勝明	公益社団法人神奈川県病院協会 会長

【オブザーバー】

氏名	職等
阿南 英明	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 理事長

5 会議の議題

- 検討会報告書まとめについて

6 会議の結果（概要）

<委員等からの主な意見>

○ 足柄上病院について

- ・ 足柄上病院は専門病院ではないが、「地域医療」や「総合診療」の県内での拠点になり得るところであり、「地域医療・総合診療の専門病院」といったビジョンを打ち出してもよいのではないかと。
- ・ 足柄上病院は、「特徴をもった総合診療科が学べる専門病院」として、高齢者をはじめとする様々な症例を診られる医師や看護師の育成には大事なポジションであり、県内だけでなく全国的にも大事な存在。立地的に必ずしも恵まれていな

くとも、そこで学べるものが多ければ、就業を希望する者も多いのではないかと。

- ・ 高齢者救急は、要介護の患者も多く、早期からのリハビリテーションが必要なので、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等の職員を配置しておく必要がある。
- ・ 専門特化した病院とは違う強みや役割があるから、小田原市民病院以外にも、その他の地域二次医療圏を含めた連携をどう取っていくのかを強調してもいいのではないかと。
- ・ 足柄上病院は再整備計画をいったん休止しているが、建築費が大幅に高騰しており、財政的に非常に厳しい中、入札しても建て替えができる状況にないというのが多くの病院の現状。そうしたことを踏まえると、再整備計画を一旦白紙に戻し、既存の建物を改修して上手く使いながら、改めて考えてもよいのではないかと。

○ こども医療センターについて

- ・ こども医療センターは、動物介在療法など、民間では難しい取組等を積極的に行っており、もっと広報したほうがよい。
- ・ 特徴をもった様々な取組を行っており、県民のニーズも高いことから、少子化に伴う病床削減等を検討する場合でも、ケースに応じて適時適切に行ってほしい。

○ 精神医療センターについて

- ・ 境界性パーソナリティ障害の患者や身体合併症のある患者は、対応が難しいので、民間病院での対応は困難。そうした患者を引き受けてほしいというのが、民間病院から一番求められていることだと思う。
- ・ 精神科病院協会や地元の診療所協会などと、定期的な会議等を開催して、協力関係を構築することが重要ではないかと。
- ・ 精神科の単科病院というのは、今後のニーズとしてはかなり厳しいと感じた。

○ 循環器呼吸器病センターについて

- ・ 間質性肺炎の治療については全国的にも有名で、非常に認められた分野だと思う。間質性肺炎を現状の建物で改築してやっていくのか、別の病院等と合併して治療を続けていくのか、を検討するのがこれからの課題であると思う。

○ 全体を通じて

- ・ 県立病院が県内のモデル的な病院となっていく上で、どのようなスキームで、どのような体制を取っていくのか、という具体的なところを検討していくのが今後の作業。
- ・ 病床数の削減というのは、新たな地域医療構想を考える中で決まっていくが、「減少」ではなく「濃縮」とも捉えられるものであり、その濃縮された中に県立病院としてのあり方、ブランディングとモデル化をどう組み込んでいくかがこれからの課題と感じた。

- ・ 全ての病院において、これからは単科の症例だけではなく、合併症がある患者を診ていくことになる。そうしたことを徹底するためには、症例数等をダウンサイジングして、適切な病床数でやっていくことが重要だと思う。

7 次回の開催

令和8年3月